



角刺神社の拝殿―葛城市で



角刺神社 (葛城市)



角刺神社(葛城市)は、
祭神の飯豊青命(飯豊)

青皇女が住んでいた忍海角刺宮跡に創建されたと伝えられています。「日本書紀」には、この宮が「倭辺に見が欲しものは忍海のこの高城なる角刺の宮」と書かれ、大層立派な建物だったとがうかがわれます。

飯豊青皇女ゆかりの地

(住所) 葛城市忍海322
(祭神) 飯豊青命
(交通) 近鉄御所線忍海駅から徒歩
約5分

(拝観) 境内自由
(駐車場) なし
(電話) なし

なぜ、その様に立派な宮だったのでしょうか。諸説ありますが、飯豊青皇女は第十七代履中天皇の孫に当たります。第二十二代清寧天皇は皇子がないうちに亡くなり、第二十三代顕宗天皇が第二十三代顕宗天皇が空位の間、政務を執

たのが飯豊青皇女で代仁賢天皇になりました。す。「飯豊天皇」とするた。

また、当社の北にある北花内大塚古墳は、宮内庁が飯豊天皇埴口丘陵として管理しています。飯豊青皇女が政務を執った後、兄弟のうち弟の弘に就きませんでした。天計が第二十三代顕宗天皇が空位の間、政務を執

皇が空位の間、政務を執

皇、兄の億計が第二十四

境内には、平安時代に神宮寺として建立された忍海寺が残り、本尊の十一面観音立像は飯豊青皇女の顔を写したものと伝えられます。拝殿前の鏡池には、中將姫が當麻茶羅を織った糸をこの池の蓮から採ったとの伝説が残ります。

(奈良まほろばソムリエの会会員 西川誠)